

LMcorsa

60● **H.YOSHIMOTO**● **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.1 Okayama GT

4月13日 | 天候：晴れ | コース：岡山国際サーキット | 路面：ドライ(路温 25度)

Qualifying Day Summary

予選Q1を担当した宮田選手がA組を3番手で突破し吉本選手が予選Q2で渾身のアタックで12位を獲得2019年シーズンの開幕戦は12番手から上位進出を目指す

Qualifying Day

全8戦で競われる2019年シーズン AUTOBACS SUPER GT。昨シーズンはいくつかのサーキットで開催時期や決勝レースの走行距離が変更されるなど変革がもたらされた。だが、今シーズンは第6戦スポーツランド SUGO ラウンドと第7戦オートポリスラウンドの開催が入れ替わっただけで、カレンダーやレースフォーマットは引き継がれている。



SUPER GT に参戦を始めてから6シーズン目となる LMcorsa は、昨シーズンと同じ第1ドライバーに吉本大樹選手、第2ドライバーに宮田莉朋選手、そして飯田章氏がチーム監督として帯同する。マシンは熟成が進む SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 で、こちらも昨シーズンと同様。唯一の違いは、使用するタイヤがヨコハマタイヤからダンロップに変わったことになる。新たに使うこととなったダンロップの特性を把握するために、チームはオフシーズンに積極的にテストを重ね、マシンのセッティングとともにタイヤとの相性を探ることに時間を費やした。そして、3月16日-17日に岡山国際サーキットで、30日-31日には富士スピードウェイで SUPER GT 公式テストが開催され、2019年シーズンに参戦するすべてのマシンが顔を合わせた。2回の公式テストでもマイレージを積み重ねた SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、満を持して開幕戦の岡山国際サーキットに乗り込むこととなる。開幕戦のスケジュールは4月13日(土)に公式練習と予選、14日(日)に300kmの決勝レースが実施される。

Qualifying Day

13日は予定通りの8時50分から1時間45分の公式練習がスタート。開始時の気温は10℃で路面温度は14℃と4月にしては冷え込んでいたが、時間が経過すると陽が差し込み路面温度は25℃を超えた。まずSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ吉本選手は、各部のチェックを行ないながら8周を走行してドライバーチェンジ。宮田選手が5周の確認走行を行なうと、再



び吉本選手がステアリングを握ってタイヤの確認とセットアップを進める。公式練習の最後に設けられた10分間のGT300専有走行は宮田選手が担当し、二人のドライバーで37周を走行。ベストタイムは宮田選手がマークした1分26秒288で、GT300クラスの29台中15番手となった。

<予選>

予選Q1は公式練習から4時間のインターバルを経た14時45分にスタートする。今回の予選Q1はGT300クラスにエントリーした29台のマシンを二組に分けて競うこととなり、上位8台ずつが予選Q2に進出。A組に振り分けられたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだのは宮田選手で、まずはタイヤやブレーキに熱を入れつつ3周を走行する。4周目にアタックを開始すると全セクターで公式練習のタイムを上回る1分26秒063をマーク。A組3番手のタイムで予選Q2へ進出した。

GT500クラスの予選Q1を挟んで行なわれた予選Q2は、吉本選手が担当する。宮田選手と同様に3周に亘って入念にウォームアップをした後にアタックを開始。予選Q1のベストタイムに匹敵する1分26秒038をマークすると翌周もアタックを続ける。セクター1、2でタイムを更新すると、最終的に1分25秒台に入る1分25秒974をマーク。しかし、ライバル勢もタイムアップを果たしたため、結果は12位となった。

明日の決勝レースは天候が荒れることも予想されていて、公式テストのウエットコンディションでは好感触を得ているだけに期待がもてる。荒れた展開となったときに重要となるのが戦略で、チームはあらゆる可能性を考えて決勝レースに臨む。



Team Comment



Director :飯田 章

公式練習の走り出しからドライバーのコメントも前向きで、マシンのセットアップも含めて方向性が見えているようでした。それでもライバル勢は同じようにタイムアップを果たしていたため、予選の結果は12番手となりました。決勝レースは、ドライでもウエットコンディションでも悪くないデータが揃っているので楽しみです。タイヤやピット戦略などでの確な判断を行ない、必ずポイント圏内でフィニッシュしたいと思っています。



Driver :吉本 大樹

2回の公式テストより気温と路面温度が高くなったこともあり、状態は上向いています。公式練習の序盤は路面コンディションと合っていませんでしたが、予選になると改善しました。予選Q1は組み分けが良かったこともあり3番手で通過し、予選Q2に挑みました。タイヤへの熱の入り方が想定とは異なっていたので、2周連続でアタックしました。2周目には1分25秒台に入ったのですが、上位陣が速く12番手でした。岡山国際サーキットはマシンとの相性が良くないのですが、ここ数年で一番の手応えを感じました。明日の決勝レースでは追い上げていきます。



Driver :宮田 莉朋

公式練習では18周を走行しましたが、事前の公式テストよりもかなり好感触でグリップ感もあり、この状況ならば戦えると思いました。予選はQ1を担当し、想定では1分25秒台に入らないと予選Q2に進出するのが厳しいと考えていました。結果は1分26秒063と目標には届きませんでしたが、それでも3番手で突破でき役割を果たせてホッとしています。決勝レースは、上位陣がタイヤの選択や交換などで異なる戦略を採るはず。まわりの状況を判断しながら、的確にポイントを積み重ねていきたいです。

